しまどり

第 111 号

2022 年 1 月

日本野鳥の会三重

http://miebird.org/

三重タカの渡り 2021

四日市市　笹間 俊秋

今年も野鳥の会三重会員有志により、三重県内各地でタカの渡り観察が行われました。北勢地方はいなべ市と岐阜県海津市の境にある庭田山から観察を行い、南勢地方は伊勢市のやすらぎ公園から観察が行われ、海側の鳥羽でも観察が行われました。また、飯高町と奈良県の県境にある高見山でも観察が行われました。さらに 10 月上旬にはタカの渡り探鳥会が行われる予定でしたが、残念ながら今年もコロナまん延の影響で中止となってしまいました。各地の観察から今年の傾向を報告します。

庭田山

（観察者：笹間俊秋、米倉 静）

9 月 7 日から観察へ行きました。去年は 9 月 20 日過ぎから本格的に飛び始めましたが、今年は早くも 10 日過ぎには 20 羽前後が飛び始め、20 日を過ぎると連日 60 羽前後が通過しました。23 日の探鳥会は中止でしたが、観察ではハチクマ 16 羽、サシバ 25 羽、ノスリ 6 羽、ハヤブサ 1 羽が記録されました（表 1）。

庭田山からの全景　名古屋から大垣まで見渡せる

庭田山の特徴としてはサシバよりハチクマが確認されることの方が多いです。さらに 9 月 13 日にはサシバ暗色型も観察できました。そしてタカ以外にも 9 月 20 日には金華山でコウノトリが見られたと情報が入りましたが、その 30 分後に庭田山頂公園を通過して三重県側へ飛んで行きました。

目次

三重タカの渡り 2021---------- 2
表紙の言葉---------- 2
(仮称) 三重松阪蓮 (はちす)
ウインドファーム発電所建設計画について--------- 5
垂坂公園でのオオムシクイ観察記録---------- 6
三重県におけるオオムシクイ ---------- 7
2021 年 1 月の三重県下ガンカモ調査の結果 -------- 9
昨冬のミヤコドリカウント ----------11
冬鳥調査の薦め----------11
ほのぼの鳥さん Watching----------12
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 26 回　ハジロコチドリ、ミズカキチドリ、
オオチドリ、コバシチドリ―　---------14
シギチドリ～秋の渡り ----------19
全国鳥類繁殖分布調査の最終報告 ----------20
野鳥の会三重　会員限定ライングループ ----------20
理事会報告----------21
事務局だより ----------21
野鳥記録----------22
探鳥会予告（2022 年 1 月～ 3 月）----------25
探鳥会報告（2021 年 8 月～ 2021 年 10 月）-----26
編集後記----------28

表紙の言葉

ミサゴ

松阪市　中村 真理子

なかなか会う事の出来ない猛禽類はみんなの憧れ的存在。せっかく会えても遠いことが多く、その姿は間近には観察できない。

そんな中、海に行けばいつも会えるタカがいる。シュッと長い翼に白いタイツを履いた美しい姿、ミサゴだ。小鳥好きの私にはタカの狩りはどちらを応援していいのかハラハラだが、ミサゴの狩りの相手は魚なので安心して見ていられる。目の前で水に飛び込み、魚をゲットすると『獲ったど～』とこちらの頭上を飛んで見せに来てくれ、さらに少し離れた電柱の上で食事シーンも披露。安定、安心、愛想良し。サービス満点の三拍子揃ったミサゴさんである。

庭田山で観察された暗色型サシバ

渡り途中の通常型サシバ

三重県側へ通過したコウノトリ　撮影：鈴木 健真

伊勢　やすらぎ公園

（観察者：中西 章、高木正文、濵屋勝則、濱口雅也、西村 泉　他）

昨年と同様、今年度も低調に終わりました。これまで天候が崩れる前や天候が回復した翌々日には必ずと言っていいほど大きなヤマがあり、大量に飛ぶ日はある程度予測できました。けれども、今シーズンはピークらしいピークもなく空振りに終わる日がほとんどでした。伊勢で観察できるタカは伊良湖から飛んでくるため、伊良湖での観察数が回復しない限り今後も伊勢での観察は期待できないと思います。9 月 29 日にはサシバ 48 羽、ハチクマ 2 羽、ミサゴ 2 羽と今年最多を記録しました（表 2）。

表1：庭田山　タカの渡り(2021 年)

日付		天候	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハヤブサ	クマタカ	計
9月10日	（金）	晴	4	40			2	46
9月13日	（月）	晴	5	4				9
9月23日	（木）	晴	25	16	6	1		48
合計			34	60	6	1	2	103

表2：伊勢タカの渡り2021 年　（伊勢やすらぎ公園）

月日	時間	天候	サシバ	ハチクマ	ミサゴ	計	備考
9月19日(日)	7:30～9:00	快晴	0	0	0	0	コシアカツバメ,ツバメ
9月20日(月)	7:30～9:00	晴	0	0	0	0	
9月21日(火)	7:50～9:00	晴～曇	0	0	0	0	
9月22日(水)	観察せず	天候不良	ー	ー	ー	ー	
9月23日(木)	8:00～10:00	晴	16	0	1	17	アマツバメ10,ツバメ
9月24日(金)	8:00～10:00	晴	1	0	0	1	ツバメ
9月25日(土)	8:00～10:00	曇	0	0	0	0	※オオタカ1
9月26日(日)	観察せず	天候不良	ー	ー	ー	ー	
9月27日(月)	8:00～11:00	晴	42	0	0	42	(北)ツバメ
9月28日(火)	7:30～11:00	晴	18	0	オオタカ1	19	
9月29日(水)	7:50～11:00	晴	48	2	2	52	(南)
9月30日(木)	観察せず	天候不良	ー	ー	ー	ー	
10月1日(金)	8:00～10:00	曇	0	0	0	0	※オオタカ1
10月2日(土)	7:30～11:00	晴	12	0	0	12	(北～南)ツバメ,アマツバメ
10月3日(日)	7:20～11:00	晴	14	0	0	14	(正面～南)
10月4日(月)	7:30～10:00	快晴	13	0	0	13	(真上～北)
10月5日(火)	8:00～9:30	快晴	0	0	0	0	
10月6日(水)	8:00～10:00	快晴	0	0	1	1	※オオタカ1
10月7日(木)	観察せず	天候不良	ー	ー	ー	ー	
10月8日(金)	8:00～10:00	曇	1	0	0	1	コシアカツバメ(北) ヒヨドリ50
10月9日(土)	8:00～10:00	曇～晴	1	0	0	1	(北)
10月10日(日)	観察せず	天候不良	ー	ー	ー	ー	
合計			166	2	5	173	

表3：鳥羽タカの渡り（2021）

観察日	天候	風向	風力	観察時間			サシバ	ハチクマ	ノスリ	ミサゴ	計	備　考
9月29日	晴	北東	弱	10:00	～	11:30	0	0	0	―	0	
10月2日	晴	北東～北西	弱	9:10	～	15:10	16	1	0	―	17	中断 11:30～13:35
10月3日	晴	東	弱	10:40	～	15:00	7	3	0	―	10	中断 11:30～13:45
10月5日	晴	東	弱	10:55	～	15:00	1	0	0	―	1	中断 11:35～13:00
10月6日	晴	東	弱	9:25	～	15:00	3	0	0	―	3	中断 11:30～14:00
10月14日	晴	北	弱	13:55	～	15:00	0	0	1	―	1	
計							27	4	1	―	32	

※　今年はミサゴも飛ばず。

鳥羽　加茂川左岸堤防

（観察者：川村晴彦）

9月29日より10月14日まで6日間晴天時に観察しました。10月2日にはサシバ16羽、ハチクマ1羽が観察されました。今年はミサゴが観察されませんでした（表3）。

南勢ではサシバの渡りが多い

高見山

（観察者：西村四郎）

10月1日から3日まで、高見山トンネル手間で観察しました。1日は台風接近で条件が悪かったです。3日には風はありませんでしたが172羽、感覚的には200羽以上のサシバが通過しました（表4）。高見山では2006年から2012年までは野鳥の会奈良県支部によりタカ渡りが調査されていましたが以降は行われていません（表5）。

今年はタカの渡り探鳥会として庭田山、相津峠（高見山へ変更）、奈良県御杖村みつえ高原が行われました。みつえ高原での結果は探鳥会報告を参照してください。

表4：高見山　タカの渡り（2021年）

日付		天候	時間	サシバ	ハチクマ	ノスリ	オオタカ	ハイタカ	ツミ	計
10月1日	（金）	台風前	8:00-11:00	2						2
10月2日	（土）	晴	9:30-11:30	27		1				28
10月3日	（日）	晴	7:30-11:10	172	3		1	1	2	179
合計				201	3	1	1	1	2	209

コメント

10月1日　風力8m程、台風接近で風強く条件悪い日。

10月2日　風力2m、台風一過だが、風は吹く。　探鳥会

10月3日　風なし、10時前後、川の流れの如く次々に流れてきた。

感覚的には200以上、カウント漏れは相当あるかもしれない。

表5：高見山タカ渡り記録（奈良県支部）

年	期間	サシバ	ハチクマ	ノスリ	他	計
2006	9/22-10/14	1,425	6	3	8	1,442
2007	9/24-10/18	1,108	32	2	15	1,157
2008	9/28-10/12	830	9	3	2	844
2009	9/26-10/10	1,826	13	1	3	1,843
2010	9/25-10/11	863	20	8	6	897
2011	9/29-10/9	394		1		395
2012	10/2-10/9	1,704	3	4	3	1,714

(仮称) 三重松阪蓮 (はちす) ウインドファーム発電所建設計画について

玉城町　西村 泉

松阪市飯高町森にある蓮 (はちす) ダム周辺の広大な山域に、「(仮称) 三重松阪蓮ウインドファーム発電所」が計画されている。事業者の「リニューアブル・ジャパン株式会社 (東京)」は、迷岳 (1,309 m) など標高 1,000 m級の山々の尾根筋に高さ 183 m もの巨大風車 60 基を設置し、国内では最大規模の 251,000kw の発電を見込んでいる。計画地は香肌峡県立自然公園内であり、松阪市が迷岳を含む１１座の山々を「まつざか香肌イレブン」と名付け登山者に人気のコースもある。

2021 年８月、日本野鳥の会三重は、公益財団法人日本野鳥の会と連名で「(仮称) 三重松阪蓮ウインドファーム発電所計画段階環境配慮書に対する意見書」をリニューアブル・ジャパン株式会社へ提出した。意見書では自然環境保全の観点から、計画地がクマタカなど希少猛禽類の生息地であることやサシバなど猛禽類の渡りのルートになっていることから計画を中止すべきであると強調した。 また、日本自然保護協会も同様に計画を中止すべきとの意見を事業者に提出した。

また計画地の首長の受け止めはというと、事業実施想定区域（以下、想定区域）の一部に入っている大台町の町長は早々に「建設には反対」と表明したが、松阪市長は「中立の立場」を維持している。そのうえで県知事は、「計画を中止か想定区域の抜本的な見直しを求める意見」を事業者へ送った。

１０月、環境省は、想定区域内の配慮すべき事項 (希少猛禽類の生息、猛禽類の渡りの経路、等) について、「風力発電施設等の設置等の再検討、-- 中略 --　あらゆる環境保全措置を講じても、なお重大な影響を十分低減できない場合は、本事業の取りやめも含めた事業の抜本的な見直しを行うこと」という厳しい意見を出した。さらに、経済産業省も上記の意見を踏まえ、同様に「本事業の取りやめも含めた事業計画の抜本的な見直しを行うこと」との意見を公表している。

１１月、想定区域内の多気郡大台町では、建設計画に懸念を抱く地元の住民グループが建設反対の署名活動を行った。地元の新聞記事によると町内外から 4,408 人の署名が集まったという。住民グループは署名を添え、町長へ建設に反対する要望書を提出したところ、後日、事業者は大台町を想定区域から除外すると発表した。一方、同じく想定区域内の松阪市飯高町では、事業者による住民説明会が開かれた。飯高町森の説明会で事業者は「住民の同意が得られない中で進めることはできない」と明言。しかし「（意見書などで）動植物全体についていろいろな意見をいただいた。今後は計画地で動植物などを調査するうえで、専門家の意見を得ながら進めていきたい」との説明があったが、説明会に参加した地元住民から厳しい意見が相次いだという。飯高町でも住民自治協議会が反対の姿勢を示している。

楕円は風車建設のおおよその場所を示す。国土地理院地形図に加筆

１２月、事業者は三重県庁を訪れ、これまでの経緯や事業計画を説明。今後、具体的な風車の設置基数や事業区域の変更を検討するという。

この建設計画では、鳥類への影響のほかに風車の騒音や影による健康被害、土地改変による土砂崩壊、水質汚染、植物、生態系、景観、など重大な影響が懸念されている。
日本野鳥の会三重は、今のところ日程は未定だが、想定区域か周辺地域での探鳥会を予定している。

垂坂公園でのオオムシクイ観察記録

四日市市　今西 純一

私がオオムシクイの存在を知ったのは2011年の3月、文一総合出版のBIRDER3月号の特集「ムシクイ類パーフェクトバイブル」にてです。しかし、識別に余り興味のない私としては"よく分からないからメボソムシクイでいいや"という気持ちでした。

2011年にメボソムシクイ、オオムシクイ、コムシクイが別種として登録されてからも、2018年までずっとメボソムシクイとして記録を取ってきました(表1)。オオムシクイとして記録を始めたのは2018年の10月からです（表2、なぜこの時期からだったのかは記憶にありません)。

三重県で観察されるのはメボソムシクイ、オオムシクイの2種かと思われます。メボソムシクイがやや大きいようですが、フィールドで観察する限りでは判別は難しいようです。よって、確実な識別はさえずりに頼ることになります。

他に、オオムシクイは「地鳴きが大きい」「秋の遅い時期まで渡る」などの情報があったため、これらを参考に"オオムシクイだろう"と判断して記録しております（つまり過去の記録は信頼度がかなり低いということです)。オオムシクイの地鳴きは若干ウグイスに似ますが、ウグイスの「チャッチャ」に比べ、「ジッジッ」と濁った感じに聞こえるため慣れれば違いに気付くことが出来ます。またウグイスほど潜行性が高くないため声を追えば撮影する機会に恵まれます。

さえずりを聞くことは今までありませんでしたが、2021年6月5日に地鳴きとさえずりを確認。録音することができました。メボソムシクイは4音節、オオムシクイは3音節でさえずるようで、今回はオオムシクイと断定しても良いかと思われます。

2021/06/05　撮影

2015/10/24 撮影

観察した場所は暗い林の中で、木の高い場所を移動しながらさえずっていました。ネットの情報となりますが、オオムシクイは6月の上旬頃まで渡りをするようですので、今回の記録が特別遅いわけではないようです。

逆に、6月に入ってメボソムシクイを観察した場合は、オオムシクイを疑って、少し観察を続けてみてさえずりを記録できないか粘ってみる価値がありそうです。カメラでもスマートフォンでも、とにかく動画機能をオンにして姿が見えなくても声だけでも記録しておくと良いかと思います。

今後も気をつけて観察を続けることで、確実なオオムシクイ情報を記録として残したいと思います。

表1.　メボソムシクイとして記録

観察日	観察手段	備考
2015/10/24	撮影	
2015/11/01	撮影	
2016/10/10	観察	
2016/10/22	撮影	
2017/05/14	観察	
2017/09/09	撮影	
2020/09/21	撮影	早い時期

表2.　オオムシクイとして記録

観察日	観察手段	備考
2018/10/21	撮影	遅い時期
2018/10/27	観察	遅い時期
2018/11/03	撮影	遅い時期
2019/10/06	撮影	遅い時期
2019/10/22	撮影	遅い時期
2020/05/17	地鳴き	地鳴きが大きい
2020/05/23	地鳴き	地鳴きが大きい
2020/06/07	地鳴き	地鳴きが大きい
2020/09/27	撮影	会へ報告、地鳴きが大きい
2020/10/03	撮影	会へ報告、地鳴き録音分
2020/10/04	観察	会へ報告
2020/10/18	撮影	遅い時期
2020/10/24	観察	遅い時期
2021/06/05	撮影＋録音	会へ報告

三重県におけるオオムシクイ

四日市市　（野鳥記録委員）　三曽田 明

オオムシクイについて

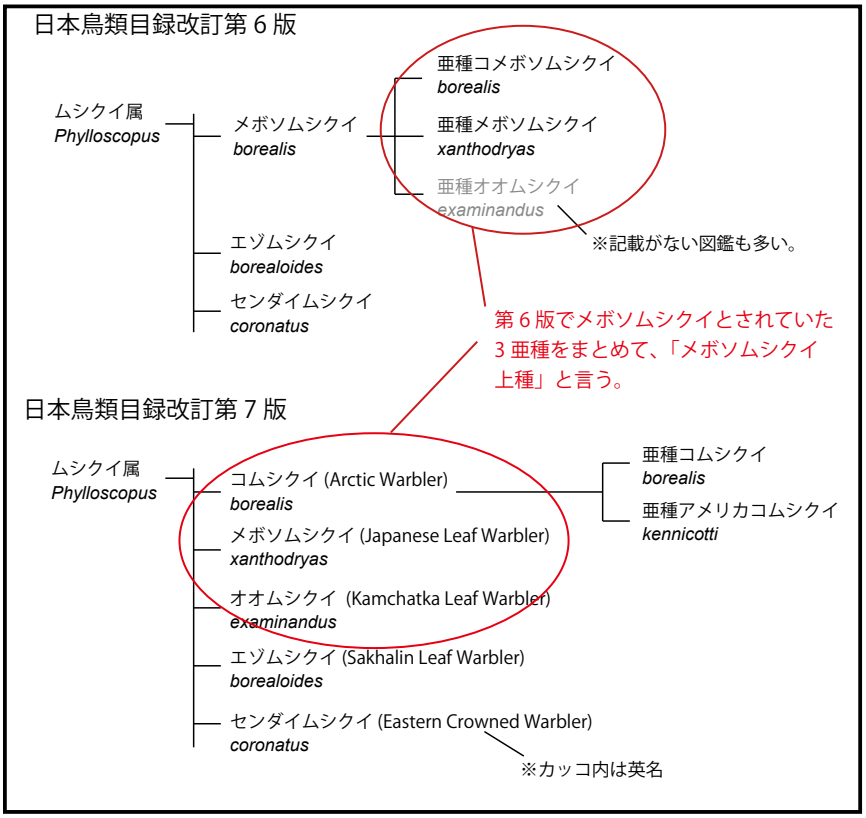
オオムシクイは古い野鳥図鑑ではその名すら載っていない。齋藤によれば、「著者と共同研究者は繁殖分布域のほぼ全ての個体群を対象に、その分子系統、外部形態、音声を調べ、それに基づいて従来の種 P. borealis を 3 つの独立種に分けるという分類を提唱した」(齋藤 2011) とあり、その後、2012 年 9 月に出版された日本鳥類目録改訂第 7 版で初めて種として記載された。それから 10 年近く経っているが、未だにあまり認知されていない鳥ではないだろうか。

もし知っていたとしても、メボソムシクイ上種 (図 1 参照) とされる 3 種の

メボソムシクイ
　(*Phylloscopus xanthodryas*)
コムシクイ
　(*Phylloscopus borealis*)
オオムシクイ
　(*Phylloscopus examinandus*)

は屋外の識別は困難で、渡りの時期と囀りに頼るしかない。

図 1.　メボソムシクイの分類について



そのような事情から、これまでの野鳥の会三重の野鳥記録には明確にオオムシクイとした正式な記録はなかったが、今西氏の 2021/6/5 の撮影および地鳴きと囀りの観察の投稿があったので、これを機会に考察してみた。

メボソムシクイ上種の渡り

齋藤 (2011) によれば、「メボソムシクイは、繁殖地に 5 月上～中旬頃渡来し、秋は 8 ～ 10 月頃に渡去する。オオムシクイは、春の通過は遅く、5 月中旬から 6 月上旬に日本列島を通過する。秋の渡りは 8 月中旬から 10 月上旬まで続く。コムシクイは秋の渡り時期に日本列島を通過するが、その数は上記 2 種に比べると少ない 」とある。

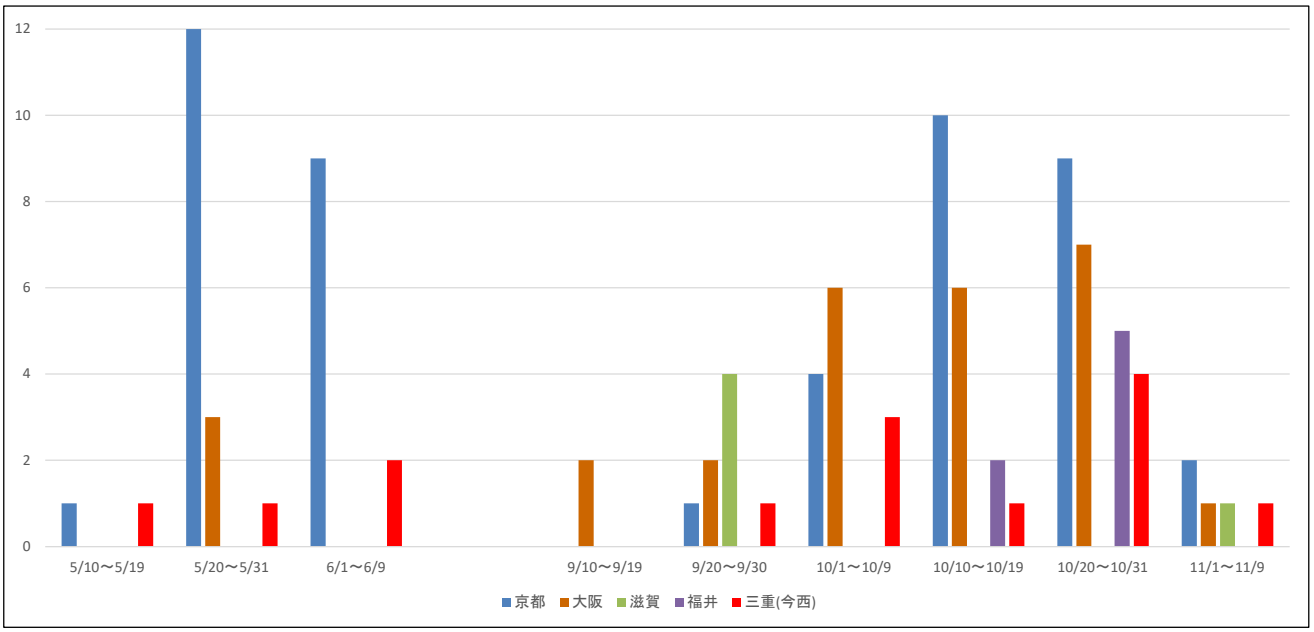
このことと他の文献等から、三重県を通過するのはメボソムシクイとオオムシクイに絞られる。では三重県ではいつ頃通過するのだろうか。その疑問を解くために、xeno-cant というウェブサイトの投稿データを調べてみることにした。xeno-cant は海外のサイトであるが、鳥の地鳴きと囀りの音声データが数多く投稿されている。前述の通り、この 2 者は外見での識別が困難であるため、音声データを利用する訳である。

xeno-cant ではメボソムシクイのデータは 33 件投稿されていた、内 31 件が日本国内のもの。ただ残念なことに繁殖地 (富士山など) でのデータを除くと 0 件となってしまった。一方、オオムシクイは 184 件、内 137 件が日本国内のものであった。こちらは、全てが渡り時 (北海道以外) のデータであった。ただ、同じ日に同じ個体の音声データを投稿している可能性があるので、同じ投稿者の同日のデータは 1 件として数えることとした。そうして、横軸は録音日 (月の上旬、中旬、下旬)、縦軸に件数としたヒストグラムを作成した (図 2)。また、このグラフには、今西氏のオオムシクイのとしての記録を三重県の記録として表した (赤色のグラフ、注意：今西氏のデータは全てが鳴き声の判定ではない)。

オオムシクイが三重県を通過するのは、「春:5 月中旬～ 6 月上旬」、「秋：9 月下旬～ 11 月上旬」と言えそうである。

メボソムシクイについてはデータに基づいて渡りの時期を特定することができないが、複数の情報

図 2. オオムシクイ xeno-canto 投稿データ　録音日のヒストグラフ



を総合して勘案すると、もし三重県を通過するとしたら「春：4 月下旬～ 5 月上旬」、「秋：9 月中旬～ 10 月下旬」と思われる。期間が重なるときの観察では、どちらであるかは明言できないため、100% とは言えないが、今西氏のオオムシクイの記録は他の近県の観察時期と一致しており、オオムシクイである妥当性はある。むしろある意味、メボソムシクイはデータがないというのは、三重を含めた近県の人里を通過する個体のほとんどがオオムシクイなのではないのだろうか。

地鳴きと囀り

ムシクイ類は姿は酷似していても囀りは大きく異なる。メボソムシクイ上種の 3 種についても「大きく」とまではいかないが異なる。色々な書物で擬音などの文字で鳴き方が表されているが、私にはどうも、実際の鳴き声と一致させることができない。特にオオムシクイは「ジジロジジロ」と鳴くとされているが、この鳴き方のみをするというわけではないように思える。ここでは三重では観察できないコムシクイを除いた 2 種についてソナグラフ (声紋) を使って判定を試みる。使用するソフトは Adobe の Audition(有料、フリーソフトの Sonic Visualiser でもできるらしい)。

xeno-cant でオオムシクイとメボソムシクイの品質の良い音声データを 5 件ずつ選んで (本当はもっとたくさんサンプルを取るべきだが、ご容赦ください)、ソナグラフにしたもので比較してみた (そのグラフは割愛)。いずれも囀りの前に地鳴きが入ることが多く、その地鳴きと囀りの相対的な関係に特徴があることが分かったので、それを表にしてみた (表 1、2)。これでは分かりくいのでそのイメージ

表 1. オオムシクイ　音声の周波数

xeno-canto Catalogue number	地鳴き (単位 KHz)			囀り (単位 KHz)		
	下限	中央	上限	下限	中央	上限
XC319153	3.5	5.8	8.0	3.3	5.2	7.0
XC417957	3.5	5.8	8.0	2.7	4.6	6.5
XC559556	3.5	5.8	8.0	2.7	4.6	6.5
XC559557	3.0	5.8	8.5	2.7	4.6	6.5
XC560517	3.0	5.5	8.0	2.8	5.2	7.5

表 2. メボソムシクイ　音声の周波数

xeno-canto Catalogue number	地鳴き (単位 KHz)			囀り (単位 KHz)		
	下限	中央	上限	下限	中央	上限
XC150171	2.5	3.4	4.3	3.4	4.7	6.0
XC285740	2.8	3.9	5.0	3.3	4.6	5.8
XC285743	2.5	3.8	5.0	3.0	4.3	5.5
XC285775	2.3	3.5	4.7	3.0	4.5	6.0
XC416934	2.3	4.2	6.0	2.8	4.7	6.5

図 3. オオムシクイ　ソナグラフの特徴

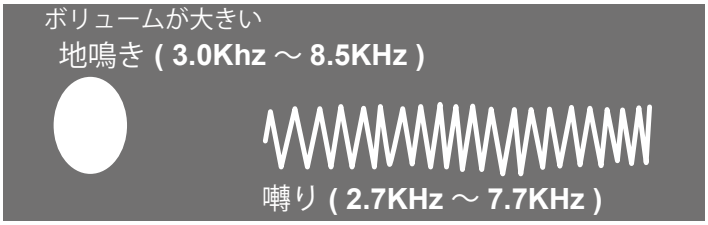


図 4. メボソムシクイ　ソナグラフの特徴

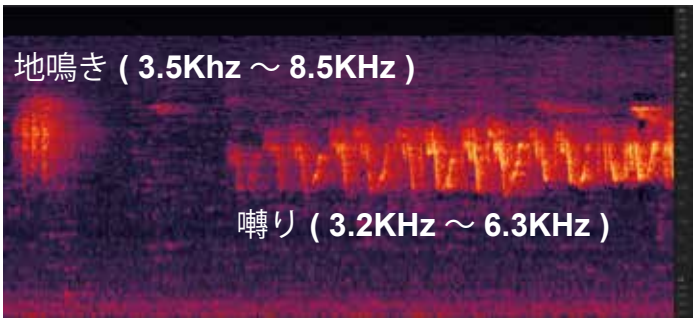
を図で表す。(図 3、4)。オオムシクイの地鳴きは、囀りと同じくらいのボリュームがあり (ソナグラフでは色が濃い)、周波数も高い。それに対してメボソムシクイの地鳴きは囀りもボリュームが低く (ソナグラフでは色が薄い)、周波数も低い。

今西氏が 2021/6/5 に録音した音声のソナグラフを図 5 に示す。地鳴きと囀りは同じくらいのボリュームで、地鳴きの周波数が囀りよりも高いというオオムシクイの特徴と合致する。よって私は 2021/6/5 に今西氏が録音したデータはオオムシクイのものであると判断した。

みなさんにお願い

三重県を通過するメボソムシクイ上種のほとんどがオオムシクイのようであるが、それはまだ推測の域を出ていない。ぜひ、オオムシクイの渡り時期には耳を澄ましてオオムシクイを見つけ、スマホで良いので動画 (画像なし、地鳴のみで OK) を撮影して、そのデータを野鳥記録へ投稿してほしい。

図 5.2021/6/5 今西氏から提供された音声のソナグラフ



引用・参考文献

日本鳥学会 (編)(2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版 . 日本鳥学会 , 三田

齋藤武馬 (2011) メボソムシクイ . バードリサーチニュース 2011 年 11 月 :2-3.

大西敏一 (2013) 新目録を楽しもう　メボソムシクイ上種の識別にチャレンジ ! - メボソ・オオ・コムシクイはもう怖くない ! ? -. むくどり通信 No.223:4-7.

梅垣佑介 (2019) メボソムシクイ上種 . 本の渡り鳥観察ガイド :108. 文一総合出版社 , 東京

内田清之介 (1975) 最新日本鳥類図説 . 講談社 , 東京

Xeno-canto[https://www.xeno-canto.org/](閲覧 2021/11/20)

2021 年 1 月の三重県下ガンカモ調査の結果

津市　平井 正志

日本では 1968 年以降毎年全国規模でガンカモ調査が行われている。当会の前身、三重野鳥の会の発足が 1971 年なのでそれよりさらに 3 年前となる。全国で野鳥の会、あるいは類似の団体がこの調査に協力してきた。カモの種類を識別することは会員にとっては初歩的な技術であるが、一般市民にはとても困難である。かといって調査会社に依頼すれば、膨大な資金が必要となる。ガンカモ調査は野鳥の会の社会的責務と言っても過言ではないであろう。なお、全国のガンカモ調査の結果は環境省ホームページで閲覧できる。

本年 2021 年 1 月には三重県下で合計 362 か所が調査された。うち、174 か所が三重県からの委託を受けて当会が担当し、それ以外は県職員などが担当した。

全県でガンカモ類は総数 39,201 羽であった。主な調査地のガンカモ総数を表 1 に示す。

また、種類別の合計個体数を表 2 に表す。河口付近、および海上で多くのガンカモが計測された。特に雲出川から櫛田川河口にかけての地域で多くのガンカモが見られた。内陸の池で最も多かったのは玉城町、明和町にまたがる斎宮調整池であった。伊賀地方、東紀州では比較的少数であった。

種類別に見ると、ガン類は宮川河口でコクガンが 8 羽、鈴鹿市内陸の山上池でマガンが 1 羽だけであり、ハクチョウ類はゼロであった。個体数の最も多いのはスズガモ。しかし、ほとんどが海上のものをカウントしたので、概数と言えよう。マガモ、カルガモ、ヒドリガモが多く、コガモ、オナガガモがこれに続く。このあたりは会員の納得のいく結果であろう。しかし、キンクロハジロが意外に少ないと思

表 1 ガンカモ種類別個体数 (2021 年 1 月調査)

種名	個体数	種名	個体数
マガン	1	オナガガモ	3,533
コクガン	8	ハシビロガモ	1,031
ツクシガモ	5	ホシハジロ	2,087
オシドリ	458	キンクロハジロ	1,139
マガモ	6,113	スズガモ	8,508
カルガモ	5,266	ホオジロガモ	19
コガモ	3,037	ウミアイサ	74
トモエガモ	17	カワアイサ	26
ヨシガモ	325	ミコアイサ	90
オカヨシガモ	1,579	クビワキンクロ	1
ヒドリガモ	5,688	メジロガモ＊	1
アメリカヒドリ	1	カモ類種不明	194
		ガンカモ合計	29,201

＊： メジロガモとアカハジロの雑種

表2. 主な調査地点のガンカモ個体数（2021年1月調査）

調査地点番号	市町村名	調査地点名		ガンカモ個体数
1	桑名市	揖斐川		301
2	桑名市	揖斐川河口		48
206	桑名市	木曽川河口		363
230	桑名市	木曽川下流		348
231	桑名市	長良川下流		266
6	いなべ市	中里ダム	*	70
109	いなべ市	両ヶ池		202
9	四日市市	山村ダム		239
10	四日市市	伊坂ダム		361
346	四日市市	市場留下池（北勢中央公園）		357
347	四日市市	土取池		263
23	鈴鹿市	山上池		656
228	鈴鹿市	若松沖		968
33	津市	安濃川志登茂川河口		470
46	津市	横山池		187
47	津市	風早池		57
51	津市	香良洲沖		787
50	松阪市	雲出川河口		3156
52	松阪市	五主池		594
53	松阪市	曽原		935
59	松阪市	三渡川河口		2193
60	松阪市	金剛川河口		1188
116	松阪市	宝光池		522
121	松阪市	吹井の浦		1857
132	松阪市	五主海岸北		382
316	松阪市	四郷池（ベルファーム）		277
317	松阪市	笊池（ベルファーム）		156
323	明和町	祓川河口		538
340	多気郡	斉宮調整池		1928
122	伊勢市	外城田川河口		935
67	伊勢市	宮川河口		1766
221	伊勢市	五十鈴川・汐合大橋		744
223	伊勢市	サン・アリーナ調整池		304
72	南伊勢町	内瀬（伊勢路川）		1147
73	志摩市	神路ダム		199
78	伊賀市	真泥池		94
240	伊賀市	小田池		125
75	名張市	青連寺湖		80
271	伊賀市	四十九新池		203
83	紀北町	片上池	*	49
95	紀北町	船津川		42
98	紀北町	銚子川河口		65
99	尾鷲市	須賀利大池	*	83
108	紀宝町	新宮川河口	*	171

＊：三重県職員等で調査地点、無印は当会会員調査地点

うのは著者だけだろうか。ヨシガモはかなり少なく、オシドリよりもさらに少ない結果となった。

オシドリについては合計458羽であった。2015年、2016年に県全体で1100羽以上をカウントしたが、2017年には400羽台に減少し、その後も回復していないことになる。前述の宝光池はオシドリが174羽であった。この池はゴルフ場内にあり、一般には開放されていない。その他に君ケ野ダム51羽、横山池92羽などが多かった。それ以外にも山間の小規模な溜池でオシドリが恒常的に飛来し、越冬する池がいくつかあるが、公表できない。なお、横山池は2021年には多かったが、今までゼロかあるいは数羽であった。また、平地の三方を堤防で囲った。溜池で、オシドリが飛来するような山間の池ではない。なぜこの年に飛来したのか、今後も定着するのか疑問である。

カワアイサは各地の川で稀に記録される。今回は木曽川下流、河口で記録されたが、毎年飛来するのではなさそうである。それ以外にも宮川中流など内陸で恒常的な飛来地がありそうである。また、ガンカモ調査の対象となっていない中流の流れのゆるやかな場所でも、見かけたことがある。宮川、櫛田川の中流など、カワアイサの飛来地を探してみたいものである。

ヨシガモは東洋特産の美しいカモであるが、今回の結果では結構少なかった。多数が飛来し、越冬する場所は限られているようだ。IUCNではNT（准絶滅危惧種）となっている。

トモエガモも、東洋特産のカモで、主として朝鮮半島で越冬する。気象条件などで、日本に多数が飛来する「当たり年」がある。2021年は宝光池で12羽、その他、伊勢路川内瀬、雲出川須ヶ瀬でも数羽　当たり年ではなかった。ガンカモ調査とは別に2020年11月に北勢中央公園で観察された（しろちどり110号）。この次の当たり年は何時だろうか？

他に、メジロガモ、アカハジロとメジロガモの雑種各1羽が観察された。

来年2022年のガンカモ調査ではどんな結果がでるのか楽しみである。

昨冬のミヤコドリカウント

津市　平井 正志

昨冬のミヤコドリカウントの結果の一部はしろちどり 108 号に掲載しましたが、20 年 10 月、21 年 2 月、21 年夏のカウント結果を合わせて報告します。

2020 年 10 月末には 145 羽が記録され、その後ほぼ同数が伊勢湾西海岸、高松海岸から、金剛川河口までのどこかで越冬していました。特に高松海岸に多数が滞在することが多かった。なお、夏、7 月中旬のカウントでは高松海岸で 11 羽が観察され、越夏したものと考えられます。なお、しろちどり 107 号、108 号にもミヤコドリの記事がありますので、参考にしてください。

カウントには下記の会員が参加しました。
今井光昌、今井鈴子、岡八智子、片山賢一、近藤義孝、笹間俊秋、田中洋子、中村洋子、西村泉、平井正志、前田聡、吉崎幸一、米倉静（五十音順）、

表：伊勢湾西海岸ミヤコドリカウント結果

	2020/10/24 12:00-13:00	2020/12/21 12:00-13:00	2021/1/21 10:00-11:00	2021/2/22 12:00-13:00	2021/7/17 10:00-11:00
高松海岸	0	104	107	101	11
鈴鹿川河口	0	1	0	4	0
鈴鹿川派川河口	0	0	0	0	0
楠海岸	0	0	0	0	0
豊津～町屋浦海岸	0	0	0	0	0
安濃川河口	0	49	41	4	0
雲出川河口右岸～五主海岸	0	0	0	0	0
雲出川河口左岸～雲出古川	0	0	0	0	0
三渡川河口～阪内川河口	0	0	0	0	0
松阪港	145	0	0	40	0
金剛川河口	0	3	0	0	0
櫛田川河口	0	0	0	0	0
松名瀬海岸～大淀海岸	*	0	0	0	0
合計	145	157	148	149	11

数字はミヤコドリの個体数
*：調査しなかった場所

冬鳥調査の薦め

津市　平井 正志

県内に飛来するガンカモ類、シギチドリ類、カワウはこれまでも当会で調査してきたし、全国でも調査され、詳しい記録が残っている。また、希少な鳥類、コウノトリ、タンチョウ、シマフクロウなども調査が行き届いている。

しかし、冬鳥のうち、山野に生息する陸鳥、ツグミ類、ジョウビタキ等についてはきわめて身近な鳥であるにも関わらず、調査されていない。年により、飛来数にかなり変化がありそうだし、新聞社などから、「冬鳥が少ないのではないか？」との問い合わせが時々あるが、回答できるデータを持ち合わせていない。全国でも調査されているとは聞かない。

そこで、当会ではいくつかのモデルコースを定めて、ライン調査を企画した。冬鳥の飛来、飛去の動向、個体数の年次間差などが明らかになればおもしろい。

コースは今のところ、菰野町県民の森、北勢中央公園、多度峡の 3 コースである。だれでも、いつでも、調査できるし、調査結果は当会窓口へメール、あるいは郵送してほしい。

詳しい調査方法、集計用紙、コースは　当会ホームページで公開するので、閲覧、ダウンロードできるようにする予定である。ある程度データがまとまれば、会報やホームページで結果を公開する。

ほのぼの鳥さんWatching

お庭で鳥見

松阪市 中村 真理子

庭に来る鳥

●スズメ●イソヒヨドリ●モズ
●ムクドリ●キジバト●メジロ
●カワラヒワ●ハクセキレイ
●ヒヨドリ●ツグミ●シロハラ
●ジョウビタキ

部屋の窓はミラーのフィルムを貼っているので
中から外は見えても 外から中は見えません。
半分カーテンやすだれをかけるなど工夫を。

毎年 冬～春は、庭に鳥さんを呼ぶためにいろいろ工夫をしてきました。
そしてコロナ禍で外出自粛ムードの中、自宅の庭に来る鳥さんにどれだけ癒やされたことか…(T-T)
今回は自宅でぬくぬくお茶を飲みながらかわいい鳥さんを愛でる庭を紹介させていただきます。

牛脂は大人気

- 牛脂はキジバト、カワラヒワ、モズ以外はみんな食べますが、獣がとどかずカラスの留まれない高めの細い枝へかけます。
- カゴは百均のものに割箸をつけてます。
- 夜は獣が来るのでしまう方が無難です。
- 牛脂はスーパーの精肉コーナーにありますが私は津の某有名肉屋さんが100g:10円なので500g～1kg買って冷凍して使っています。

コムラサキ

ジョビちゃんとヒヨとメジロが好き

マイルール

早朝に食べ物を置いたら、なくなっても次の日の朝まで補充はしません。後は自力で食べ物を探しに行ってもらいます。

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化

―連載第 26 回　ハジロコチドリ、ミズカキチドリ、オオチドリ、コバシチドリ―

津市　今井 光昌

ハジロコチドリは旅鳥または冬鳥として日本に渡来しますが、渡来数は多くありません。三重県では主に冬鳥として数も 1-2 羽単位での渡来が多く、且つ、毎年渡来することはありませんが、晩秋から春まで数か月に渡って 1 個体を観察できる機会に恵まれることがあるので、稀な鳥と言うイメージが薄いです。類似種のコチドリは海辺より内陸部の水田や埋立地を好みますが、ハジロコチドリは海岸に近い干潟や浜辺を好みます。ハジロコチドリに酷似している鳥にミズカキチドリがいます。体形も羽模様も似ており、生息域も海岸や干潟、水田地帯などとよく似ています。尚、2006 年と 2018 年に愛知県で観察したミズカキチドリはいずれも水田地帯でした。

ハジロコチドリ　成鳥　夏羽雌雄

♂成鳥夏羽は顔と胸の黒色部が強く、♀成鳥夏羽は顔の黒色部が褐色味を帯びます。従って、図 1 は♂、図 2 は♀と識別できます。前頭の黒色部も胸の黒帯も♀は♂に比べて幅が狭いです。

図 1 ハジロコチドリ♂　2017.04.24

図 2 ハジロコチドリ♀　2013.04.11

ハジロコチドリ　成鳥　冬羽に換羽中～冬羽

図 3 は前頭や胸の黒色部がやや淡くなってきた夏羽から冬羽に換羽中の羽衣です。冬羽に換羽すると嘴は黒くなりますが、基部に少し橙色が残るものもいます。前頭や過眼線、胸の黒色部は薄れて褐色味を帯びます（図 4）

図 3 ハジロコチドリ成鳥冬羽に換羽中　2009.08.25

図 4 ハジロコチドリ 成鳥冬羽　2014.01.11

ハジロコチドリ　第１回冬羽に換羽中～第１回冬羽

幼鳥は顔や胸が褐色味を帯び、前頭の黒色部はなく、上面各羽に淡色の羽縁があります。図５は幼羽に摩耗が見られ淡色の羽縁が消失気味の幼鳥で、肩羽に冬羽が出始めているため、第１回冬羽に換羽中とするのが正しいのかも知れません。図６の個体は背･肩羽の多くが冬羽に換羽し、雨覆に擦れた幼羽が残る第１回冬羽の羽衣です。

図５ハジロコチドリ 幼鳥　2018.11.12

図６ハジロコチドリ 第１回冬羽　2018.12.10

ハジロコチドリ　第１回夏羽

成鳥夏羽は顔や胸の黒色部の黒味が強いだけでなく、嘴は橙色で先端部のみが黒く、足色は鮮やかな橙色です。図７の個体は顔や胸の黒色部の黒味が強く、嘴基部の橙部分は少なく黒い部分が多いです。背・肩羽に夏羽と退色した冬羽が混在し、雨覆には擦れた幼羽が残っています。一見、夏羽に換羽中の成鳥とも見えますが、足色が緑味のある鈍い橙色です。成鳥の足色はこれまでの観察経験では夏羽も冬羽も橙味がもっと鮮やかです。

図７ハジロコチドリ 第１回夏羽　2012.04.17

ミズカキチドリ

ミズカキチドリは夏羽も冬羽もハジロコチドリに酷似していますが、大きな違いはミズカキチドリには中趾と内趾の間に小さな蹼（みずかき）があることと、過眼線が口角に接していないことです。他に体が少し小さい、嘴が太目で短い、胸の黒帯が細いなどの違いはありますが、その差は微妙で分かり難いことが多いため、蹼の有無、過眼線と口角が接するか否かが、重要な識別点になります。尚、ミズカキチドリは三重県での観察記録はありません。

ミズカキチドリ　成鳥冬羽

図 8-9 は 2006 年に愛知県愛西市に渡来した個体で、ミズカキチドリとして公認されています。図 10-11 は 2018 年に名古屋市に渡来した個体です。当時、ハジロコチドリだと言う説が一部にありました。２個体とも成鳥冬羽で羽模様が似通っています。

ミズカキチドリ　口角と過眼線

ミズカキチドリの主な特徴の一つは口角と過眼線が接しないことですが、図 8 の愛西市のミズカキチドリと同様に図 10 の名古屋市の個体も過眼線が口角に接していません。

図 8　ミズカキチドリ　愛西市 2006.12.05

図 9　　図 8 の頭部拡大図　口角と過眼線

図 10　ミズカキチドリ　名古屋市 2018.11.26

図 11　　図 10 の頭部拡大図　口角と過眼線

ミズカキチドリ　蹼（みずかき）

2006 年の愛西市の個体（図 12）にも、2018 年の名古屋市の個体（図 13）にも、中趾と外趾の間だけでなく、中趾と内趾の間にも蹼がありました。口角と過眼線が接していないこと、内趾と中趾の間に小さな蹼があること、体が小さかったこと、胸の黒帯もハジロコチドリと比べると細いなど、ミズカキチドリと判断できる特徴を多く持っていました。

図 12　　図 8 の足趾拡大図

図 13　図 10 の足趾拡大図

ミズカキチドリとハジロコチドリ　全長と翼帯

図鑑によればミズカキチドリの全長は17-19㎝、ハジロコチドリは18-20cmで、ミズカキチドリの方が少し小さいです（図14）。2018年の名古屋市のミズカキチドリはハジロコチドリ4羽、コチドリ数羽と行動していました。ハジロコチドリの成鳥2羽と幼鳥1羽よりは明らかに小さく、もう1羽の幼鳥とはほぼ同じ大きさでした。体の大きさには個体差があり、識別の参考にはなっても決め手にはなりません。尚、ミズカキチドリには明瞭な翼帯がありますが（図15）、ハジロコチドリにも翼帯があります。

図14　ミズカキチドリ（左）とハジロコチドリ（右）
2018.11.26

図15　ミズカキチドリの翼帯　2018.11.26

オオチドリ　成鳥夏羽

オオチドリは西日本で記録されることが多い稀な旅鳥で、比較的乾いた環境を好み、3月～4月頃に、畑や乾燥した水田、砂地などで観察されています。これまでに三重県に渡来したオオチドリは4個体だと思いますが、一度に複数羽が観察されたことはなく、1羽単位の観察記録しかありません。オオチドリ♂夏羽は胸の橙色と白い腹との境界に黒帯があります。♀夏羽も頸から胸は淡い橙色ですが胸の黒帯はありません。図16も図17も胸に黒帯があることから♂と分かります。尚、オオチドリには顔に褐色味がある個体と（図16）と白味の強い個体（図17）がいます。年齢に関係なく翼下面は灰褐色です。

図16　オオチドリ　♂成鳥夏羽　2008.04.08

図17　オオチドリ　♂成鳥夏羽　2020.04.18

オオチドリ　第１回夏羽

図 18 の個体は胸の橙色と黒帯の濃さから♂の成鳥夏羽と似ていますが、拡大した図 19 を見ると雨覆に激しく摩耗した羽があります。この摩耗した羽が幼羽であれば第 1 回夏羽となりますが、原形を留めないほど摩耗した、幼羽と冬羽の見分けは困難です。只、3 月 27 日で冬羽がここまで摩耗するのかということがあります。図 16 の成鳥夏羽の雨覆には激しく摩耗した羽は見当たらず、図 18 の個体には激しく摩耗した羽が雨覆に残ることで第 1 回夏羽と判断しましたが、第 1 回夏羽と成鳥夏羽の年齢識別は他のシギ・チドリと同様にオオチドリも難度が高いです。また、オオチドリが稀な旅鳥で参考になる第 1 回夏羽の資料がないこともあります。尚、胸と腹の境に黒帯があることから、第 1 回夏羽か、成鳥夏羽かにかかわらず、♂と判断できます。

図 18　オオチドリ　第 1 回夏羽　2012.03.27

図 19　　図 18 の体上面を拡大

コバシチドリ

稀な旅鳥で日本での記録は幼鳥が殆どです。三重県にも幼鳥の渡来記録があります。図 20 のコバシチドリは岡山県の海辺の埋め立て地で撮影したものです。淡色の眉斑が後頭まで伸び、胸に白帯はありますが、成鳥の白帯のように明瞭ではあ　　りません。肩羽は冬羽に換羽しており細いバフ色の羽縁が目立ちます。雨覆に幼羽が残っています。ダイゼンやムナグロに似ていますが全長が違います。ダイゼンは 27-31㎝、ムナグロは 23-26㎝、コバシチドリは 20-22cm です。

図 20 コバシチドリ第 1 回冬羽 2010.01.26

最後に

三重県で撮影できていないシギ・チドリ科の鳥が数種類あります。今回はその内の、2006 年と 2018 年に愛知県で撮影したミズカキチドリ成鳥冬羽 2 個体と、岡山県で撮影したコバシチドリ第 1 回冬羽も取り上げました。

シギチドリ～秋の渡り

伊勢市　中西 まほ

晩夏から秋にかけて、松阪から明和町の海沿いは、たくさんのシギチドリでにぎわいます。8 月の終わりごろから、成鳥が姿を現し、少し遅れて幼鳥も渡ってきました。私にとっては、シギチドリの識別はとても難しく、鳥見の大先輩に教えていただいたり、図鑑やネットで調べたりしながら、がんばりました。初めて見るシギチさん、春に出会ったのに換羽でまったく違う別鳥のようになっているシギチさん、夏羽から冬羽に換羽中でごちゃごちゃ模様のシギチさんなどなど。一種で何度でも新しい発見があるのが、シギチさんの魅力だと思います。

◎秋の渡りで出会ったシギチさん：ダイゼン、メダイチドリ、オオメダイチドリ、シロチドリ、キョウジョシギ、トウネン、ヨーロッパトウネン、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、キリアイ、ハマシギ、ミユビシギ、コオバシギ、オバシギ、エリマキシギ、オオハシシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、オグロシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ、タシギ。計 29 種類に出会うことができました。

全国鳥類繁殖分布調査の最終報告

四日市市　（全国鳥類繁殖分布調査　三重のとりまとめ担当）　三曽田 明

会員の皆様にもご協力いただき、2016 年から 2020 年までに行われた「全国鳥類繁殖分布調査」の最終結果がまとめられました。その結果報告は、

https://www.bird-atlas.jp/

のホームページの「発行物」-「全国鳥類繁殖分布調査の調査報告」から PDF で誰でも見ることができるようになっています。

ここでは記載例としてオオタカの繁殖分布のページを右に載せます (現物は先の URL よりご覧ください)。

以前の調査は環境省 (環境庁) が行っていたのですが、そのときのものから、いくつかの点でずっとよくなっています。一番はカラーになっていて PDF の解像度が高くて見やすい。それから、以前はなかった垂直分布図というものが示されていて、その鳥が観察された標高が分かるのも新しい。そして、QR コード。そこから、さえずりナビや生態図鑑詳細といったその鳥に関する追加情報のあるバードリサーチのウェブサイトを開くことができます。

野鳥の会三重　会員限定ライングループ

四日市市　（ホームページ担当）　三曽田 明

会員の皆様同士のコミュニケーションとしては主に探鳥会がありますが、現在はコロナ禍もあり中止も多く、期待通りではないと思います。そこで、野鳥の会三重の会員を限定としたライングループを作って運用することにしました。ただ、このグループの運用はセキュリティ管理が甘いので、まずは試験的な運用とさせてください。

参加資格

野鳥の三重の会員であること。

参加方法

①右下の QR コードで「野鳥の会三重 (フリートーク管理用)」のアカウントに友達申請する。
※友達は自由に登録できます。

②会員番号 (下位 5 桁) を知らせてもらう
野鳥の会三重のアカウントから、「会員番号 (下位 5 桁) を知らせてください」というメッセージが届くので、 会員番号 (下位 5 桁) を返信する。

③「野鳥の会三重フリートーク」に招待される。
野鳥の会三重の会員として確認できたら、「野鳥の会三重フリートーク」に招待されます。

注意事項

何か問題が発生すれば、即座に閉鎖する可能性があります。また、 以下の項目に該当するものは投稿しないでください。

- 繁殖期に野鳥の巣を撮影したもの
- 稀少種 (公開することでカメラマンが集まるもの)
- 第三者の権利を侵害するもの

現在、既に野鳥の会の三重の理事のメンバーをグループに登録して試験的な運用を始めています。気軽に仲間になってください。

なお、ホームページの「フォーラム」は時代に合っていなくて全く使われていないため、2021 年度中に閉鎖します。

非公開

野鳥の会三重
(フリートーク管理用)

理事会報告

2021 年 10 月 17 日（日） 津市安濃中央公民館　出席：12 名　欠席：1 名

【協議事項】

1. 探鳥会再開
   11 月は会員限定、「会員」とは野鳥の会三重の会員とする。
   12 月以降は一般参加者が可能で開催する。リーダーの開催確認は取らない。
2. 鈴鹿青少年の森問題
   会の方針 = 保留のまま
3. 木曽岬干拓地　開発問題
   意見書　作成し理事で確認後、提出する。
4. 海岸パンフ印刷
   太陽光発電についての記述 = 変更。印刷部数：2500 部　不足分は会で補填する。
5. 松阪蓮風力発電問題
   来年春、現地で探鳥会または小規模な探鳥会を行う。
6. ガンカモ類及びカワウ一斉調査
   調査員を拡大し若返りを図る。調査員は会報などで募集する。
7. 冬鳥調査（新規）
   ラインセンサス　1 時間くらいで可能なコース（県民の森、北勢中央公園、多度峡）
8. 会員限定 LINE　会でスマホを購入し理事が担当する。
   珍鳥情報は流さない。繁殖状況は繁殖妨害にならないもののみを流す。
9. 県合同探鳥会
   場所：香良洲海岸　実施日：5 月
10. 三重県野鳥目録作成について
    地区ごとに記載　年内に仕分けを行う。
11. その他

【報告事項】

1. 会報誌しろちどり発行予定　　11 月 10 日締め切り　12 月あるいは 1 月発行
2. 大島ドブネズミ駆除地元説明会へ出席
3. 亀山市探鳥会　代表が対応
4. 「令和 3 年度連携団体全国総会」への出席 (オンライン) について

事務局だより

活動の記録　（2021 年 9 月～ 11 月）

2021 年

9/ 7　会報誌「しろちどり第 110 号」発行・発送作業
9/10　海岸パンフレット改訂版　作成・校正作業
9/12　国の「環境影響評価法施行令の一部を改正する政令案」に対する意見募集に
　　各理事が意見書を提出
10/17　理事会開催（津市内）
10/21　「木曽岬干拓地整備事業（第二期）の環境影響評価方法書」に対する意見書を県に提出
11/ 5　ガンカモ調査についての打ち合わせ、（県庁にて：代表）
11/13　会報誌「しろちどり第 111 号」編集会議

野鳥記録（2021 年 8 月 15 日から 2021 年 11 月 7 日までに報告があったもの）

	鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄／雌／などの区別	記録報告者氏名	脚注
1	キリアイ	1	2021/08/14	明和町		鈴木 健真	1
2	コアオアシシギ	1	2021/08/14	松阪市		鈴木 健真	2
3	オバシギ	1	2021/08/20	松阪市　金剛川河口		鈴木 健真	3
4	オバシギ	3	2021/08/20	松阪市　阪内川河口		鈴木 健真	4
5	トウネン	11	2021/08/29	松阪市　五主海岸		鈴木 健真	5
6	オオソリハシシギ	2	2021/08/29	松阪市　金剛川河口		鈴木 健真	6
7	コアオアシシギ	1	2021/08/29	松阪市		鈴木 健真	7
8	ウズラシギ	1	2021/08/29	明和町　笹笛川河口		鈴木 健真	8
9	ムナグロ	23	2021/08/29	明和町　笹笛川河口		鈴木 健真	9
10	ソリハシシギ	1	2021/08/29	津市　安濃川河口	白化個体	鈴木 健真	10
11	カンムリカイツブリ	2	2021/08/29	津市　安濃川河口		鈴木 健真	11
12	ミヤコドリ	3	2021/09/01	川越町　高松海岸	幼鳥	平井 正志	12
13	コウノトリ	1	2021/03/31	多気町　しあわせの宮		田辺 茂	13
14	キアシシギ	1	2021/08/28	四日市市　鈴鹿川派川河口		寺尾 幸太朗	14
15	チュウシャクシギ	1	2021/09/11	鈴鹿市　箕田公園		寺尾 幸太朗	15
16	オオミズナギドリ	1000	2021/09/19	松阪市　伊勢湾沖		寺尾 幸太朗	16
17	コサメビタキ	3	2021/09/19	四日市市　垂坂公園		今西 純一	17
18	オオムシクイ	1	2021/09/27	四日市市　垂坂公園		今西 純一	18
19	セイタカシギ	1	2021/09/29	伊賀市		南 一朗	19
20	オオムシクイ	7	2021/10/09	四日市市　垂坂公園		今西 純一	20
21	アリスイ	2	2021/10/11	志摩市磯部町	成鳥	濱屋 勝則	21
22	ヤツガシラ	1	2021/09/13	多気郡		岡本 めぐみ	22
23	ヒドリガモ	1	2021/11/06	鈴鹿市	雌	今西 純一	23

脚注

(脚注は記録として重要なもののみを抜粋して掲載します。なお､語尾は｢である｣調に変更してあります。)

1. ミユビシギの群れの中にキリアイ幼鳥が 1 羽混ざっていた。
2. 水が入った休耕田にコアオアシシギが 1 羽いた。
3. 潮が引いた河口にオバシギが一羽いた。
5. 浜辺にトウネンが 11 羽。採餌していた。
8. 干潟にウズラシギが一羽来ていた。
10. 対岸の干潟に白いシギ。なんと白いソリハシシギ。ノーマルな色の 2 羽のソリハシシギとともに採餌していた。
12. うち 1 羽は右脚を負傷していた模様。
13. 最近名張に初めてコウノトリが飛来したと聞き、3 月にワラビ取りをしている時に、この鳥を見つけた。ネットで写真が出ていたのを見てコウノトリかもと思った。
14. 派川の秋の渡りのシーズン初認。
15. 初めて来た。チュウシャクシギを確認できたので、他の渡り鳥も来ないか観察していきたい。
16. 台風一過、1000 羽以上飛んでいた。
17. 初認。この後 9/23 にも 4 羽観察したが、9/27 には 1 羽も観察できず。去年に比べると数が少ない。エゾムシクイは 1 羽も見えず。
18. 少しさえずりが聞こえたが、小声過ぎてはっきりわかりません。
19. 私は伊賀では初めて観察。

20. どさっとというほどではないが、垂坂公園にしては多くの個体が入ってきた。正確に数えられたのは 7 羽、地鳴きを聞く限りでは 10 羽以上いたと思う。
21. 最初気が付いた時点で 2 羽いるのに驚き慌ててカメラを構えた。
22. 主人が発見、撮影した。
23. 今年も白いアイリングのある " メジロなヒドリガモ " が戻ってきた。2017 年度の冬から数えて今期で 5 年連続。すでに雄とペアになっているようで常に一緒に行動していた。羽繕いをしてもらったり（写真 2）と仲が良さそう。

キリアイ　撮影：鈴木 健真

コアオアシシギ　撮影：鈴木 健真

チュウシャクシギ　撮影：寺尾 幸太郎

ソリハシシギ　撮影：鈴木 健真

コウノトリ　撮影：田辺 茂

ヤツガシラ　撮影：岡本 紳也

オオミズナギドリ　撮影：寺尾 幸太郎

セイタカシギ　撮影：南 一朗

アリスイ　撮影：濱屋 勝則

ヒドリガモ　撮影：今西 純一

原稿募集

編集部では会報「しろちどり」に掲載する原稿を募集しています。 「ひとり探鳥」は探鳥会報告の形式と同じ形式で掲載しますので、探鳥者名、日時、場所、出現した鳥名、コメントをお寄せください。むろん写真も OK です。
探鳥会が平常通りに行われていても「ひとり探鳥」は掲載しますので奮ってご投稿ください。

「写真」も随時募集します。複数枚の組写真も OK です。簡単なコメントを付けてください。
また「イラスト」も随時募集しています。

投稿は当会のホームページの一番下の「会報へのご意見・ご投稿」から、または奥付に記載の住所へ郵送でお願いします。（編集部）

探鳥会予告（2022 年 1 月～ 3 月）

探鳥会は開催する予定ですが、直前に中止になる場合もありえます。リーダーに問い合わせる、あるいは当会のホームページ、Twitter(@wbsj_mie) などで確認してください。

● 1 月 22 日 (土)　肱江川探鳥会
開催地／桑名市多度町猪飼　肱江川周辺
集合／ 10:00 肱江川 猪飼橋 南詰め
解散／ 12:00 集合地

● 1 月 23 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
開催地／愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
集合／　9:00　愛知県 弥富野鳥園
解散／ 12:00　集合地

● 1 月 23 日（日）上野森林公園探鳥会　小雨決行！
開催地／伊賀市下友生　三重県上野森林公園
集合／ 9:30　上野森林公園 第 2 コテージ駐車場
（正門のあるビジターセンター駐車場ではありません）
解散／ 11:30　集合地

● 1 月 25 日（火）木曽三川探鳥会
開催地／桑名市・海津市・愛西市　揖斐川・長良川・木曽川
集合／　9:00　桑名市　多度大社前駐車場付近
解散／ 12:00　集合地

● 1 月 30 日（日）大淀海岸探鳥会　小雨決行！
開催地／多気郡明和町　大淀海岸周辺
集合／　9:30　大淀小学校前　業平の松公園
解散／ 11:30　集合地

●２月６日 (日)　鈴鹿青少年の森探鳥会　小雨決行！
開催地／鈴鹿市　県営鈴鹿青少年の森
集合／ 10:00　管理事務所前（プレハブの建物）
解散／ 12:00　集合地
備考／**参加予約必要　鈴鹿市環境政策課（059-382-7954）**

● 2 月 12 日（土）丹生探鳥会
開催地／多気郡多気町　丹生
集合／　9:30　ふれあいの館（丹生大師前）
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 13 日（日）五十鈴川周辺探鳥会
開催地／伊勢市浦田町　五十鈴公園
集合／ 10:00　浦田町バス停
解散／ 11:30　現地

● 2 月 13 日（日）樋池カモ類探鳥会
開催地／伊賀市西の沢　樋池
集合／　9:30　JR 関西線 新堂駅 南口駐車場
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 19 日（土）三滝川かんさつ会　小雨決行！
開催地／三重郡菰野町　三滝川河川敷
集合／　9:30　　大羽根グランド駐車場
解散／ 12:00 頃　集合地

● 2 月 20 日（日）津偕楽公園探鳥会
開催地／津市広明町　津偕楽公園
集合／ 10:00　津偕楽公園駐車場
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 27 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、1 月 23 日と同じです。

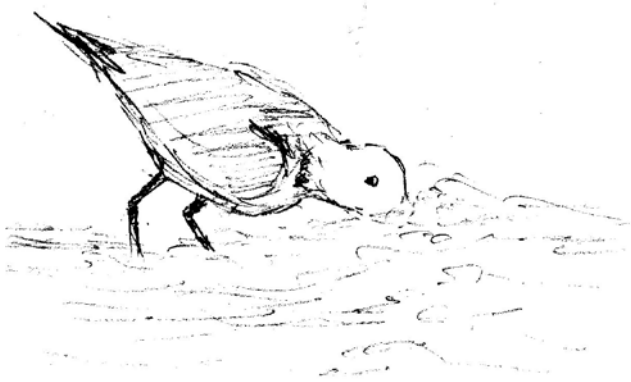
● 3 月 5 日（土）身近な冬鳥を観察しよう
（海辺の鳥）初心者歓迎
開催地／三重県総合博物館 及び 津市高洲町 安濃川河口右岸
集合／　9:30　三重県総合博物館 2 階 エントランスホール
解散／ 12:00　現地
共催／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
備考／**参加予約必要　三重県総合博物館　059-228-2283**

● 3 月 6 日 (日)　石垣池探鳥会
開催地／鈴鹿市石垣 3 丁目　石垣池
集合／ 10:00　石垣池駐車場横
解散／ 12:00　現地

● 3 月 8 日（火）海蔵川で鳥見 ing!
（バードウオッチング）その 6　小雨決行！
※当日は野鳥を観察する事が目的の為、カメラでの野鳥撮影はご遠慮下さい。
開催地／四日市市西坂部町　海蔵川沿い
集合／　9:45　海蔵川代官橋 北詰
解散／ 12:00　集合地

● 3 月 19 日 (土)　宮リバー公園探鳥会　初心者歓迎
開催地／度会町　宮リバー公園周辺
集合／　8:00　バザールわたらい前 駐車場
解散／ 10:00　現地

● 3 月 27 日（日）木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、1 月 23 日と同じです。



ミユビシギ

探鳥会報告（2021 年 8 月～ 2021 年 10 月）

コロナウイルス拡大防止のため、リーダーだけの探鳥に切り替えたものは（リーダー探鳥）と記載してあります。

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 8 月 22 日（日）9:00 ～ 12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静　笹間俊秋　参加者 2 名（会員 2 名）

カルガモ (1)、キジバト (3)、カワウ (20)、アマサギ (50)、アオサギ (10)、ダイサギ (5)、チュウサギ (15)、コチドリ (2)、イソシギ (2)、ツバメチドリ (2) ミサゴ (4)、トビ (1)、チュウヒ (1)、コゲラ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (5)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (2)、ツバメ (100)、ヒヨドリ (1)、メジロ (1)、セッカ (30)、スズメ (100)、ハクセキレイ (3)、カワラヒワ (1)、ドバト (4)、　計 26 種

まん延防止処置のため探鳥会は中止となり、リーダーのみで調査になりました。前日までぐずついた天気でしたが、この日は曇っていましたが何とか雨は降りませんでした。

干拓地では セッカは鳴いていますが、あまりツバメは飛んでいません。鍋田の田んぼで稲の刈り取りをしているため そちらへ行っているようです。休耕田ではツバメチドリが 2 羽滞在していました。そしてチュウヒは目の前で狩りをしてくれました。真夏ということで 確認されたのは 26 種と少な目でした。

●揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 8 月 28 日（土）17:00 ～ 19:00
桑名市　多度町福永
笹間俊秋　参加者 1 名（会員 1 名）

カルガモ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ　　計 12 種

今年もコロナの影響で探鳥会は中止でした。リーダーのみで午後 6 時過ぎに観察場所へ向かいました。日が落ちて揖斐川の葦原へは まずスズメが集団で入っていきましたが、ツバメは数羽単位で入っていきますが、あまり多くありませんでした。ツバメの塒 (ねぐら) は年によって違うので予想は難しいです。

●五主探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 9 月 11 日（土）13:00 ～ 14:40
松阪市五主海岸
吉崎幸一　中村真理子　参加者 8 名（会員 8 名）

カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、メダイチドリ、チュウシャクシギ、トウネン、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、イソヒヨドリ、ハクセキレイ　計 17 種

午前中の雨も上がり、開始時には熱いくらいの日が差していました。

最近当場所ではシギ・チドリの数も種類も少ない傾向があり、今回も多く見られたのはトウネンとメダイチドリでした。干潟の先端近くではダイサギが魚を咥えて、飲み込むのに手こずっているような姿が見られました。沖の並んで立っている竹にはウミネコに混じってオオアジサシが止まっていました。観察を終えようとするころ、オオアジサシがウミネコとカワウが降りている干潟に飛んできて、水浴びをして直ぐに元いた沖の竹に戻って行きました。

●庭田山タカ渡り探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 9 月 23 日（木・祝）10:00 ～ 13:00
海津市　庭田山公園
笹間俊秋　米倉 静　参加者 2 名（会員 2 名）

キジバト、ハチクマ (16)、トビ (2)、サシバ (25)、ノスリ (6)、ハヤブサ (1)、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ホオジロ　　計 11 種

今年もコロナの影響でリーダーのみの観察になりました。それでも山頂公園は、タカの渡りの観察に多くの一般の方が観察されていました。

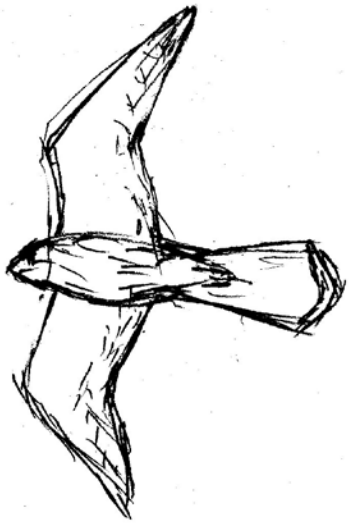
11 時過ぎには多くのタカが渡っていき、3 度のタカ柱が出来ました。ハチクマとサシバが主でしたがノスリやハヤブサも渡っていき、午後 2 時までに 50 羽が通過しました。

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 9 月 26 日（日）9:00 ～ 11:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 3 名（会員 3 名）
カルガモ (10)、キンクロハジロ (1)、カイツブリ (1)・キジバト (8)、カワウ (20)、ゴイサギ (1)、アマサギ (2)、アオサギ (20)、ダイサギ (20)、ケリ (1)、ムナグロ (1)、イソシギ (3)、ツバメチドリ (3)、ミサゴ (4)、オオタカ (1)、モズ (5)、ハシボソガラス (10)、ハシブトガラス (15)、ムクドリ (100)、スズメ (200)、ハクセキレイ (2)、ドバト (33)　計 22 種

新型コロナウイルスのため探鳥会は中止となりました。3 名のリーダーで観察地を回り調査しました。雨のため、観察に苦労しました。

●相津峠タカ渡り探鳥会 ➡ 高見に変更（リーダー探鳥）
2021 年 10 月 2 日（土）8:30 ～ 11:30
松阪市飯高町木梶
西村四郎　中村真理子　参加者 11 名（会員 9 名）
キジバト、アオバト、ダイサギ、トビ、サシバ、ノスリ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヒガラ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、メジロ、オオルリ　計 15 種

場所は相津峠から高見に変更しました。蓮の風力発電計画が持ち上がったことによる変更です。基本は中止ですが、集合場所に何人か集まり、高見へ向かいました。前日に台風が通過し、条件は良くなかったです。やや遠くを飛ぶサシバが観察できました。タカ柱も 2 ～ 3 回、計 27 羽でした。新しい会員さんや、風力発電に関心のある方などもお見えになり、賑やかでした。お昼は大峠でとり、鳥あわせをして波瀬駅で野鳥写真展を見て解散としました。


チョウゲンボウ

●やすらぎ公園タカ渡り探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 10 月 3 日（日）7:00 ～ 10:30
伊勢市　伊勢やすらぎ公園
中西 章　高木正文　参加者 14 名（会員 12 名）
キジバト、トビ、サシバ (14)、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、キビタキ、カワラヒワ　計 16 種

昨年に引き続き、コロナで探鳥会は中止となったが、タカ渡りのピーク時でもあり、会員・非会員合わせて 14 名の観察者となった。2 日前に関東沖で台風が通過し、天気も快晴で多くのタカが渡るのを期待したが、結局サシバ 14 羽の渡りのみであった。タカ以外では、さえずりから、渡りのキビタキ・サンショウクイが確認できた。

●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 10 月 3 日（日）8:30 ～ 11:30
奈良県宇陀郡御杖村菅野　みつえ高原牧場
南 一朗　田中豊成　参加者 3 名（会員 3 名）
キジバト、ハチクマ (2)、トビ、サシバ (75)、ノスリ (1)、クマタカ、アオゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ　計 18 種

朝から雲一つない快晴で、サシバ 75 羽、ハチクマ 2 羽、ノスリ 1 羽の渡りが観察できました。また、渡りのヒヨドリと思われる 15 羽も観られました。そしてアサギマダラも 1 頭ひらひらと渡って行きました。

●市木川河口及び水田探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 10 月 18 日（月）9:00 ～ 12:00
南牟婁郡御浜町市木　市木川河口
笹間俊秋　参加者 1 名（会員 1 名）
ヒドリガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ノビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト　計 23 種

今年も残念ながらコロナまん延のため中止となり、観察は月曜日におこないました。前日より急激に気温が下がり、肌寒い日となりました。去年はイワツバメがたくさん飛んでいましたが、ツバメ類は全くいません。田んぼには多くのノビタキが虫を取っていました。そして電柱にはノスリがとまり、秋らしい風景となっていました。

●香良洲海岸探鳥会

2021 年 10 月 23 日（土）10:00 ～ 12:00
津市香良洲町　香良洲海岸
今井光昌　今井鈴子　参加者 32 名（会員 26 名）

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、スズガモ、オオミズナギドリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、イソシギ、オバシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオアジサシ、トビ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ　計 31 種

干潟には多くのミヤコドリの他、オオソリハシシギ、オバシギ、カモメ類等が見られました。北西の風が強い絶好のオオアジサシ日和でしたが干潟に下りてくれず、遠くを飛ぶ数羽のオオアジサシが見えただけだったのは予想外でした。

風は強かったですが天気も良く、コロナの心配がある中で 32 名もの参加者があり、31 種が観察でき、楽しい探鳥会になりました。

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 10 月 24 日（日）9:00 ～ 11:30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 3 名（会員 3 名）
リーダーで個別に観察をまとめる

オカヨシガモ (5)、ハシビロガモ (4)、コガモ (52)、キジバト (2)、カワウ (15)、ゴイサギ (1)、アオサギ (3)、ダイサギ (7)、オオバン (3)、ケリ (4)、アオアシシギ (1)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (5)、トビ (2)、チュウヒ (1)、ハイタカ (1)、ノスリ (1)、カワセミ (2)、チョウゲンボウ (2)、モズ (3)、ハシボソガラス (80)、ハシブトガラス (20)、ヒバリ (3)、ヒヨドリ (10)、ムクドリ (4)、ジョウビタキ (4)、スズメ (40)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (1)、タヒバリ (20)、ホオジロ (1)、ドバト (24)

計 33 種 , 他にムシクイ類 (1)

今月もリーダーによる観察だけになりました。チョウゲンボウやチュウヒ、ノスリ、ミサゴなども現れました。風が弱かったので、快適に観察できました。

アオゲラ

編集後記

ようやく、10 月より探鳥会が再開された。しばらく会っていなかった方たちと再会して積る話で花が咲いた。そのせいで探鳥ルートを中々進まず、予定のコースを消化出来ずに途中で引き返すこととなってしまった。しかし、それが本来の探鳥会なのかもしれない。鳥見が目的ではあるが、人とのふれあいも大切である。

探鳥会が中止になっている間は、この会報誌のページ数を増やし、少しでも鳥の話題をお届けしようと試行錯誤してきた。しかし、探鳥会にまさるコミュニケーション・ツールはない。

今はまた探鳥会の中止を告知する状況へならないことを祈るしかない。　（T.S.）

しろちどり　111 号
2022 年 1 月 1 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：中村 真理子
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市